

# 用見崎遺跡

## 序 文

用見崎遺跡は、現在長島商事かごしま熱帯植物園の笠利分園の敷地内にある。1994年、笠利町教育委員会が園内の施設建設にともなう事前調査をおこない、建物跡2棟と豊富な土器、貝殻などの貝製品を検出し、ここが古代人の生活の場であったことを明らかにした。植物園側はこのことを理解し、将来植物園史跡として活用するべく、遺跡を保存する方向をとっている。熊本大学考古学研究室では、南島の新石器時代末期の状況を把握することをテーマに掲げ、実習地を用見崎遺跡に選んだ。本夏の実習を用見崎遺跡でおこなうことができたのは、長島商事の島の古代史復元への理解と、笠利町教育委員会ならびに笠利町立歴史民俗資料館学芸員中山清美氏の全面的な協力によっている。

本年の調査では、海側と山裾を結んだトレンチをあけ、狭い砂丘が山にむかって低くなっていることと、その際まで包含層が続くことを確かめた。具体的な成果についてはまとめの文章にくわしいが、現在奄美の古代史の焦点である兼久式の文化について、良好な資料を得たことは間違いない。惜しむらくは、今回発掘調査したのが包含層の上半部に留まったことである。

本年は山田康弘助手と大学院生の原田範昭君が実習の指揮をとった。事前の勉強会では、山田助手のきびしい指導のもとに、新任教師ともども緊張して臨み、出発前には厚さ2cmに及ぶ資料集ができあがったのには、その分量にわけもなく感動した。しかし事前に調べた内容が、目の前にすすんでいる発掘調査になかなか結合していかず、厚さ2cmの威力の活かされないのは残念だった。知識とそれを現実に活かせることとは別ものだと、ひたすら発掘をする若い姿をみて思った。用集落での合宿生活では、慣れない状況の中、皆それぞれ協力して分担をよくこなしたと思う。また今回は現地説明会の機会を設け、担当者にはその資料作成をお願いした。当日は、炎天下30名ほどの方が集まってくださった。あわただしい中での準備作業だったが、今後このような地域活動も、実習の一部にしていきたいと思う。

報告書作成は、原田君を中心に山田助手がこれを助けて進んだ。図をとり、文章を書き、遺跡の意味を歴史的に位置付け、その成果を他に問うところで発掘調査と実習は終了する。今回2年生、3年生はそれぞれ初めてのことに挑戦したわけである。経験を無駄にせず、発掘調査や作業の意味をしっかりと理解し、次にはより多くのことを自分で判断して、よい調査ができるよう努力してほしい。

なお報告書作成にあたり、貝類の分析は千葉県立中央博物館研究学芸員の黒住耐二氏にお引受けいただいた。黒住氏には短期間のうちに、分類ならびに分析結果を出していただき、貝類報告についても御指導くださった。厚く御礼申し上げます。

調査中、用集落の方々には、水の工面をはじめ、野菜の差し入れ等暖かい配慮をいただいた。また長島商事かごしま熱帯植物園の笠利分園、笠利町役場、笠利町立歴史民俗資料館には、生活面で多くを助けていただいた。調査中、沖縄県北谷町教育委員会中村愿氏、沖縄県教育委員会盛本勲氏には、発掘に関し資料の提供と教示をうけた。あわせて感謝したい。

1995年12月24日

木下 尚子

## 例 言

- 本書は熊本大学文学部考古学研究室による鹿児島県大島郡笠利町用字見崎所在の用見崎遺跡の発掘調査報告である。
- 発掘調査は実習調査として研究室が起案し、笠利町教育委員会の協力を得て実施された。
- 調査期間中は長島商事かごしま熱帯植物園ならびに同笠利分園、笠利町役場、笠利町立歴史民俗資料館および用集落の皆様には全面的な協力をいただいた。
- 自然遺物（貝類）の分析は、千葉県立中央博物館研究学芸員の黒住耐二氏にお願いした。
- 調査は1995年7月11日に開始され、7月21日まで計11日間にわたっておこなわれた。
- 本書の編集は山田康弘・原田範昭がおこない、執筆分担については執筆者名を各文末に記した。
- 調査参加者は以下のとおりである。  
甲元眞之 木下尚子 山田康弘  
原田範昭（大学院1年次生） 本田浩二郎（学部4年次生） 稲田和加 岡部是央  
川野博之 高崎芳美 花田誉宜 益永武史 美浦雄二 村山志穂 吉岡和哉 山下直哉  
若杉あずさ（以上同3年次生） 上田健太郎 上山敏弘 佐野朝子 西山由美子  
濱田智美 藤江 望 藤木 聡（以上同2年次生）

# 本文目次

一 遺跡の位置と環境 .....	1
二 調査の概要 .....	4
1. 調査に至るまでの経過 .....	4
2. 調査の目的と経過 .....	4
3. 層 序 .....	6
4. 遺物出土状況 .....	8
三 出土遺物 .....	12
1. 土 器 .....	12
2. 石 器 .....	17
3. 貝 製 品 .....	18
4. 開元通宝 .....	22
5. 自然遺物 .....	24
四 ま と め .....	28
用見崎遺跡（2次）出土の貝類 .....	31

# 挿図目次

第1図 周辺主要遺跡分布図	第9図 出土貝製品実測図（1）
第2図 遺跡周辺地勢図	第10図 出土貝製品実測図（2）
第3図 遺跡周辺地形測量図	第11図 ヤコウガイ製品使用部位 と破損類型
第4図 土層断面図	第12図 開元通宝拓影図
第5図 遺物出土状況	第13図 開元通宝出土遺跡（西日本・古代）
第6図 出土土器実測図（1）	第14図 貝類とりあげ番号対応図
第7図 出土土器実測図（2）	
第8図 出土石器実測図	

# 表 目 次

- 第 1 表 出土土器観察表  
第 2 表 開元通宝出土地名表  
第 3 表 出土貝類観察表 (1)  
第 4 表 出土貝類観察表 (2)  
第 5 ~ 10 表 用見崎遺跡のコラムサンプルから出土した貝類遺存体の組成

# 図版目次

- |      |   |                       |      |   |  |
|------|---|-----------------------|------|---|--|
| 図版 1 | 上 | 用長浜遺跡遠景 (西側より)        | 図版 6 | 上 | 出土土器 甕   |
|      | 中 | 用見崎遺跡遠景 (北側より)        |      | 中 | 出土土器 甕・壺   |
|      | 下 | 笠利崎の灯台近くの滝水           |      | 下 | 出土土器 甕   |
| 図版 2 | 上 | 遺跡近景 (南側より)           | 図版 7 | 上 | 出土土器 胴部  |
|      | 中 | 遺跡近景 (東側より)           |      | 中 | 出土土器 底部  |
|      | 下 | B-2・B-3 区<br>南壁セクション  |      | 下 | 貝錘   |
| 図版 3 | 上 | B-3 区南壁セクション          | 図版 8 | 上 | ヤコウガイ蓋製利器  |
|      | 中 | 第 2 トレンチ<br>北壁セクション   |      | 中 | 匙状貝製品  |
|      | 下 | A-2 区遺物出土状況<br>(南側より) |      | 下 | A 貝製玉・貝輪<br>B 貝製玉・<br>用途不明貝製品<br>C 開元通宝 (表・裏)<br>D 皿状貝製品 |
| 図版 4 | 上 | B-2 区遺物出土状況<br>(南側より) | 図版 9 | 上 | 出土石器   |
|      | 中 | B-2 区<br>コラムサンプリング    |      | 中 | 出土貝類   |
|      | 下 | A-2 区遺物出土状況<br>(西側より) |      | 下 | 出土貝類   |
| 図版 5 | 上 | A-2 区遺物出土状況<br>(北側より) |      |   |  |
|      | 中 | 調査終了時掘り上がり<br>(北側より)  |      |   |  |
|      | 下 | 現地説明会                 |      |   |  |